５）人材育成事業

国広潮里[1]

キーワード : 人材育成事業　指導者育成事業

１．はじめに

　自然環境や科学に興味を持つ沖縄県内の小中学生が、視察や体験学習、研究等を通して探究心を育みながら、地域の自然について学ぶ機会の充実を図るとともに、財団職員が持つ動植物や環境に関する知識や経験を活かした学習機会の提供を行う。また、大学等で学ぶ学生や教員を対象とした次世代の指導者育成にも寄与すべく事前調査及び実施計画を行う。
　財団職員の人材育成として、総合研究所職員の調査研究・普及活動に関する情報を共有、施設運営・収益事業等へのスキルアップを目指す。

２．事業内容

１）人材育成事業

　自然環境や科学に興味を持つ沖縄県内の小中学生が体験学習や研究等を通して探究心を育みながら、地域の自然について学ぶ機会の充実を図る。

次世代の人材育成を目的とした外部団体のイベントへの参加

　沖縄県委託事業子ども科学技術人材育成事業における科学系の職業を目指す子ども向けのサイエンスイベント「サイエンステックフェス in 北部」に有孔虫を学ぶブースで参加した（写真-1）。
　また、琉球大学の小中学生対象人材育成事業「琉大ハカセ塾」の講義の一環、で美ら島自然学校においてウミガメの学習プログラムを提供した。

写真-1　サイエンステックフェスでの様子

２）指導者育成事業

　大学等で学ぶ学生や教員、財団職員を対象に、次世代の指導者を育成することを目的とした。

(1) 講習会「夏がくる前にきいておきたい！海のキケン生物のお話」開催

概要：海洋レジャー関係者を対象とし、外部講師を招聘して海の危険生物（ハブクラゲ等）についての講習会を開催した。
講師：安座間　安仙　氏（沖縄県衛生環境研究所）
実施日：令和６年６月 21 日（金）
実施場所：沖縄美ら島財団　本部棟　視聴覚室
　海洋レジャー関係者だけでなく、ホテル業や清掃業など多様な業種から計 24 名の参加があった。ハブクラゲに刺される際のメカニズムや個体数が増えるシーズンなどについて詳しく説明があった。今後も海での事故を減らすため、海洋レジャー関係者向けの講習会を実施した（写真-2）。

写真-2 海の危険生物についての講義の様子

(2) 本部町教員向け講義を実施

概要：本部町教員を対象とした「昆虫観察会」を開催予定であったが、天候不良のため室内で「爬虫類、両生類を例とした南西諸島の成り立ち」と「八重岳産チョウ類の種同定法」についての講義を行った。
講師：徳武　浩司（普及開発課）
実施日：令和６年７月 26 日（金）
実施場所：本部小学校
　本部町教育委員会に属する教員８名が参加。沖縄島が位置する中琉球の生物学的特異性について、は虫両生類を例に解説した後、八重岳で見られるチョウ類を中心とした昆虫や小動物 28 種について写真を持参し、図鑑やネットを使って種の同定作業を行った。参加教員全員が作業について未経験だったものの興味関心は強く「ぜひ現地でも」といった声も聞かれ、継続実施の必要性を感じた。また、採集法や注意事項等についても併せて解説した（図-1）。

---

[1] 普及開発課

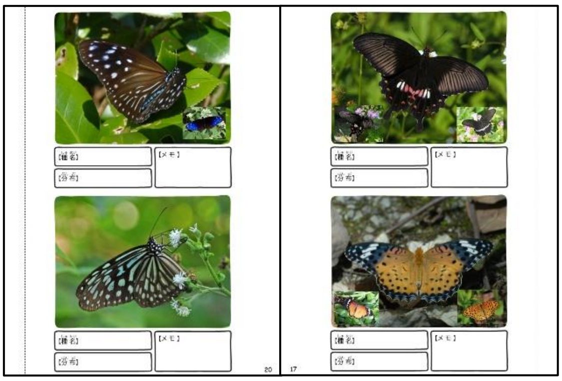

図-1 同定作業時に配布したシート（一部）

（3）総合研究所　情報共有座談会

令和２年から２年間、職員間で担当する専門分野の情報を交換することで、新規事業の立ち上げ等の一助となることを期待し、オンラインのゼミを開催してきた。本年度は、これまで参加できなかった職員に向けて過去の発表のアーカイブ配信を行った。

３．まとめ

本年度は、子ども向けの科学イベント等の参加に加え、特定の業種に従事している大人向けの講習会を開催した。海洋レジャー関係者向けの危険生物講習会では、現場で使える詳しい情報が聴きたいとの意見があったことから、実用的な知識の普及を目的に､今後はよりターゲットを絞った題材で開催する。さらに、専門知識を持った職員が各施設の解説員向けの勉強会を開催することで、知識の向上を図る。

４．外部評価委員会コメント

財団職員が持つ動植物や環境に関する知識や経験を活かした学習機会を、自然環境や動植物にかかわる職業に従事する方に対し提供し、これらの活動により沖縄の将来を担う人材の育成を目指すもので、社会貢献の高い事業である。事業の内容（専門家対象）との重なりが気になるが、受講者が迷わないように案内の工夫をする必要がある。各市町村の企画、教育委員会、調査研究機関などへの周知や連携を進めていくことが望まれる。加えて、成果の発表や資料の刊行も大いに広げていくことを期待する。

（池田顧問：琉球大学名誉教授）